由岐句会

葉桜の色合い映ゆる島の昼　（青山　文夫）
ほつほつと菖蒲の蒼む路地住い　（森本富美子）
航跡の海を切り裂き夏に入る　（片山宇野代）
草笛を吹いて昭和を呼び戻す　（中川　秀司）
高望み無き生涯や聖五月　（住谷　喜舟）
今生きる幸しみじみと新茶酌む　（戎谷　久代）
乙女らの二の腕眩し街薄暑　（戎谷　利公）
芋植えて雨音ゆるく聞きゐたる　（下町　昭）
海荒れて軒の下まで五月闇　（森　浄子）

日和佐句会

柿若葉しようたれるなと諌めくれ　（永井　雅代）
せせらぎのひときわ高き合歓の花　（白河　輝女）
春の浜無邪気に遊ぶ子供達　（橋本たかき）
宇宙よりハグの映像月おぼろ　（本庄　潮乃）
新緑やちぎり絵のごと色の文（あや）　（福井　咲希）

時雨庵句会

亀が来る町がふるさと夏立ちぬ　（名田みや女）
風に乗り空を旅する糸の蜘蛛　（勝瑞　高春）

投稿（俳句）

里ふかく若葉照り映ゆ右左　（岡本　真砂）
こいのぼり意気揚々と水にのり　（張野　浩子）

日和佐短歌会

うみがめに模す鯉のぼり浦町の風にたわむれ自在に泳ぐ　（福井　郁子）
川の辺の木々つたい咲く藤の花淡きむらさき風にゆらめく　（栗林　和子）
五月来て一番茶葉を指先に柔く感じる新芽を摘める　（小延　恭弘）
公園となりて幾年根付きたる木々の若葉のきらめく五月　（本庄たゑ子）

投稿（短歌）

だしぬけに来てうたた寝をする息子
迷惑メールを締めだして去ぬ　（下町　昭）

町民文芸のコーナーに掲載を希望される場合は、政策推進課（☎77 - 3616）まで連絡をお願いします。

※原稿は前月の15日前後までに提出してください。

にぎやかそクイズ ??

▶問題

美波町赤松地区の水稲の豊作を願う伝統芸能「赤松大田楽」。今年は、新型コロナウイルス感染対策のため、規模を縮小し「○○座」のみで執り行われました。さて、赤松大田楽を執り行ったのは「何座」でしょうか？

▶応募方法

答え、郵便番号、住所、氏名をご記入のうえ、葉書かメールでご応募ください。美波町役場（政策推進課）もしくは由岐支所にご持参いただいても結構です。正解者の中から抽選で記念品をお送りいたします。また、正解者は、次号の「広報みなみ」に氏名を掲載させていただきます。締め切りは、6月21日（月）です。

▶応募先

〒779-2395
徳島県海部郡美波町奥河内字本村18番地1
美波町役場政策推進課　広報担当
E-mail：seisakusuishin@minami.i-tokushima.jp

5月号の答えは、「5月20日」でした。
正解者（敬称略）
西田広一（兵庫県）、喜井礼子（西由岐）、張野房子（日和佐浦）、谷口夢侑（奥河内）、二宮凜音（阿南市）、角田広志（海陽町）